

おおなぐらまるやま

大名倉丸山遺跡

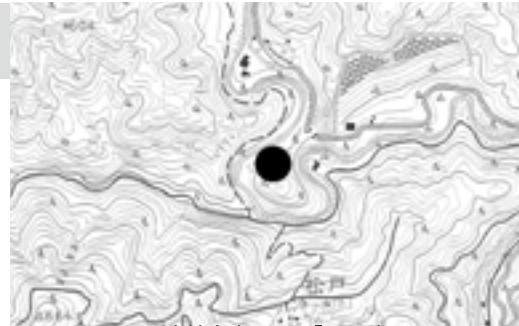
所在地 北設楽郡設楽町大字松戸字ワカドチ
(北緯35度5分59秒 東経137度33分7秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成27年10月～平成27年11月

調査面積 450㎡

担当者 樋上 昇・武部真木

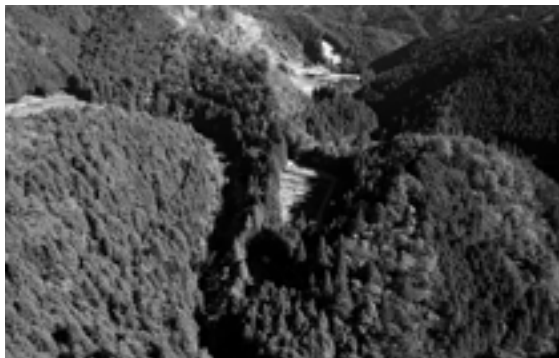


調査地点(1/2.5万「田口」)

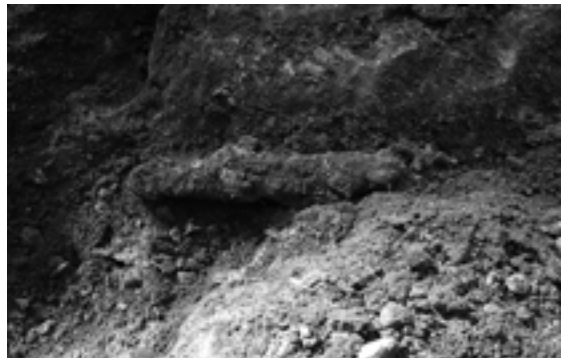
調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事関連事業として、国土交通省から愛知県教育委員会の委託を受けて平成27年10月から11月にかけて実施した。調査面積は450㎡である。

立地と環境 遺跡は、豊川水系寒狭川左岸の標高約400mの河岸段丘上に立地する。周辺で流路は大きく蛇行し、ちょうど川に囲まれた地形となっている。調査地点現況は川に向かって傾斜する西向き斜面にあり、造成された旧耕作地であったものが植林となっている。これまでに愛知県教育委員会による詳細遺跡分布調査と愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査が行われ、鍛冶滓が採取されていた。

調査の概要とまとめ 今回の調査では、複数の小土坑を検出したほか、土器小片と金属製品1点、事前調査と同様に鍛冶滓を採取した。金属製品の種類は不明であるが、処理前で直径4～5cm、長さ20cm程度の棒状を呈する。遺構・遺物ともに時期を判断する材料に乏しいが、地山から露出している岩盤、大型礫群の一部には人為的な加工痕が認められることなどから、耕作地整備の際の石垣石材の加工等に関連して、工具の修繕など鍛冶作業が付近で行われた可能性が考えられる。
(武部真木)



遺跡遠景



鉄製品出土状況



完掘状況



鍛冶滓出土状況